

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年11月9日

【四半期会計期間】 第106期第2四半期(自平成27年7月1日至平成27年9月30日)

【会社名】 東京産業株式会社

【英訳名】 TOKYO SANGYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 里見利夫

【本店の所在の場所】 東京都千代田区大手町二丁目2番1号(新大手町ビル8階)

【電話番号】 03(5203局)7690番(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 田沢健次  
総務人事部副部長 田中直之

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区大手町二丁目2番1号(新大手町ビル8階)

【電話番号】 03(5203局)7690番(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 田沢健次  
総務人事部副部長 田中直之

【縦覧に供する場所】 東京産業株式会社 名古屋支店  
(名古屋市中区新栄町二丁目13番地(栄第一生命ビル8階))  
東京産業株式会社 関西支店  
(神戸市中央区海岸通3番地(シップ神戸海岸ビル8階))  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第105期 第2四半期累計期間	第106期 第2四半期累計期間	第105期
会計期間		自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高	(百万円)	38,085	57,067	80,981
経常利益	(百万円)	770	1,445	1,928
四半期(当期)純利益	(百万円)	437	889	1,113
持分法を適用した場合の 投資利益	(百万円)			
資本金	(百万円)	3,443	3,443	3,443
発行済株式総数	(株)	28,678,486	28,678,486	28,678,486
純資産額	(百万円)	18,972	20,214	19,802
総資産額	(百万円)	39,244	43,192	42,407
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	16.30	33.13	41.48
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)	5.00	7.00	13.00
自己資本比率	(%)	48.3	46.8	46.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,216	2,786	2,148
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,462	25	1,715
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	170	259	343
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	10,648	6,022	9,132

回次		第105期 第2四半期会計期間	第106期 第2四半期会計期間
会計期間		自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	12.77	14.45

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 持分法を適用した場合の投資利益については、利益基準及び利益剰余金基準から見て重要性がないため、記載を省略しております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
4. 第105期並びに第106期第2四半期累計期間の1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定において、株式付与ESOP信託が保有する当社株式(611,000株)を自己株式として処理していることから、期中平均株式数の計算において、当該株式を控除しております。
5. 第106期第2四半期累計期間の1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定において、役員報酬BIP信託が保有する当社株式(259,000株)を自己株式として処理していることから、期中平均株式数の計算において、当該株式を控除しております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社が営んでいる事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期累計期間における我が国経済は、消費税率引上げや円安による物価の上昇などにより、個人消費が節約志向となっているものの、企業業績は政府の経済政策・日銀の金融緩和策を背景に輸出関連企業を中心に回復し、雇用環境の改善も見られるなど、全体的に緩やかな景気回復基調で推移しました。

海外においては、中国にて生産能力の過剰問題や不動産市場の冷え込みなどを背景に減速傾向が鮮明になっており、他のアジア地域への影響が懸念されております。

このようななか、当社の当第2四半期累計期間の成約高は、前年同四半期に比べ76億45百万円増加の533億17百万円（前年同四半期比16.7%増）となりました。

当第2四半期累計期間の売上高につきましては、前年同四半期に比べ189億82百万円増加の570億67百万円（前年同四半期比49.8%増）となりました。

売上総利益は34億79百万円（前年同四半期比7億45百万円増、27.3%増）、営業利益12億84百万円（前年同四半期比7億32百万円増、132.4%増）、経常利益14億45百万円（前年同四半期比6億74百万円増、87.5%増）、四半期純利益8億89百万円（前年同四半期比4億51百万円増、103.3%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (電力関連部門)

売上高は304億46百万円と前年同四半期に比べ99億11百万円の増加となっております。また、成約高は259億91百万円（前年同四半期比70億17百万円増）、成約残高は400億57百万円（前年同四半期比113億21百万円増）となりました。

#### (化学機械関連部門)

売上高は96億79百万円と前年同四半期に比べ21億99百万円の増加となっております。また、成約高は98億63百万円（前年同四半期比20億50百万円減）、成約残高は165億58百万円（前年同四半期比8億39百万円減）となりました。

#### (電子精機関連部門)

売上高は119億72百万円と前年同四半期に比べ51億89百万円の増加となっております。また、成約高は124億88百万円（前年同四半期比16億69百万円増）、成約残高は35億円（前年同四半期比36億6百万円減）となりました。

#### (環境関連部門)

売上高は49億1百万円と前年同四半期に比べ16億79百万円の増加となっております。また、成約高は49億6百万円（前年同四半期比10億8百万円増）、成約残高は72億4百万円（前年同四半期比20億48百万円増）となりました。

#### (その他)

売上高は67百万円と前年同四半期に比べ0百万円の増加となっております。また、成約高は67百万円（前年同四半期比0百万円増）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (イ) 資産の部

当第2四半期会計期間末における総資産は、431億92百万円となり、前事業年度末と比較して7億85百万円の増加となりました。主な要因として、現金及び預金が減少したものの、売上債権や商品の増加等により流動資産が14億48百万円増加し、投資有価証券の減少等により投資その他の資産が8億41百万円減少したことによるものであります。

### (ロ) 負債の部

当第2四半期会計期間末における負債合計は229億78百万円となり、前事業年度末と比較して3億73百万円の増加となりました。この主な要因は、前受金が減少したものの、仕入債務の増加等により流動負債が4億70百万円増加したことによるものであります。

### (ハ) 純資産の部

当第2四半期会計期間末における純資産合計は202億14百万円となり、前事業年度末と比較して4億11百万円の増加となりました。この結果、自己資本比率は46.8%となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前年同四半期末に比べ46億25百万円減少し、60億22百万円となりました。

### (イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、減少した資金は27億86百万円(前年同四半期は32億16百万円の資金増加)となりました。主な資金の増加要因としては、税引前四半期純利益13億80百万円、仕入債務の増加額12億44百万円であり、主な資金の減少要因としては、売上債権の増加額33億87百万円、前受金の減少額9億22百万円であります。

### (ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、減少した資金は25百万円(前年同四半期は14億62百万円の資金減少)となりました。収入の主な内訳は、有価証券の売却及び償還による収入6億円、信託受益権の償還による収入5億円であり、支出の主な内訳は、有価証券の取得による支出7億円、有形固定資産の取得による支出3億52百万円であります。

### (ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、減少した資金は2億59百万円(前年同四半期は1億70百万円の資金減少)であります。これは主に配当金の支払によるものであります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	64,000,000
計	64,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,678,486	28,678,486	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	28,678,486	28,678,486		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年9月30日		28,678		3,443		2,655

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三菱日立パワーシステムズ株式会社	神奈川県横浜市西区みなとみらい3丁目3番1号	3,913	13.64
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3番1号	3,849	13.42
CGML PB CLIENT ACCOUNT/ COLLATERAL(常任代理人シ ティバンク銀行株式会社)	CITIGROUP CENTRE, CANADA SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 5LB (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	2,102	7.33
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	1,636	5.70
三菱電機株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7番3号	1,026	3.57
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(株式付与ESOP信託 口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	611	2.13
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO(常任代理 人シティバンク銀行株式会 社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	536	1.86
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	500	1.74
MSIP CLIENT SECURITIES(常任 代理人モルガン・スタンレー MUFG証券株式会社)	25 Cabot Square, Canary Wharf, London E14 4QA, U.K. (東京都千代田区大手町1丁目9番7号)	494	1.72
三菱化工機株式会社	神奈川県川崎市川崎区大川町2番1号	480	1.67
計		15,149	52.82

- (注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式956,833株(3.33%)があります。  
2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)の所有株式611,000株は、株式付与ESOP信託の制度導入に伴う当社株式であります。  
3. 次の法人から、平成27年6月19日に大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付があり(報告義務発生日平成27年6月12日)、次のとおり株式を所有している旨報告を受けておりますが、当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
シンプレクス・アセット・ マネジメント株式会 社	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号	4,006	13.97

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 956,800		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,670,800	276,708	同上
単元未満株式	普通株式 50,886		同上
発行済株式総数	28,678,486		
総株主の議決権		276,708	

(注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式33株、および証券保管振替機構名義株式78株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社の株式付与ESOP信託口が保有する当社株式611,000株(議決権の数6,110個)、並びに役員報酬BIP信託口が保有する当社株式259,000株(議決権の数2,590個)、及び証券保管振替機構名義株式400株(議決権の数4個)が含まれております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東京産業株式会社	東京都千代田区 大手町2-2-1	956,800		956,800	3.33
計		956,800		956,800	3.33

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社の株式付与ESOP信託口が保有する当社株式611,000株及び役員報酬BIP信託口が保有する当社株式259,000株は、上記自己株式には含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

## 1 【四半期財務諸表】

## (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,322	4,312
受取手形及び売掛金	16,875	20,262
有価証券	3,499	3,699
商品	853	1,465
前渡金	2,716	2,751
その他	433	623
貸倒引当金	37	4
流動資産合計	31,664	33,112
固定資産		
有形固定資産	2,290	2,501
無形固定資産	234	202
投資その他の資産		
投資有価証券	6,079	5,118
その他	2,162	2,283
貸倒引当金	23	26
投資その他の資産合計	8,217	7,376
固定資産合計	10,742	10,080
資産合計	42,407	43,192
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,039	8,205
受託販売未払金	7,723	7,870
短期借入金	1,570	1,570
未払法人税等	242	428
前受金	3,878	2,955
引当金	332	311
その他	529	446
流動負債合計	21,315	21,786
固定負債		
長期借入金	10	5
引当金	68	63
その他	1,210	1,123
固定負債合計	1,289	1,191
負債合計	22,604	22,978

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,443	3,443
資本剰余金	2,764	2,821
利益剰余金	12,779	13,449
自己株式	647	705
株主資本合計	18,339	19,009
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,406	1,165
繰延ヘッジ損益	21	4
土地再評価差額金	35	35
評価・換算差額等合計	1,462	1,204
純資産合計	19,802	20,214
負債純資産合計	42,407	43,192

(2) 【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	38,085	57,067
売上原価	35,352	53,588
売上総利益	2,733	3,479
割賦販売未実現利益戻入額	1	1
差引売上総利益	2,735	3,481
販売費及び一般管理費	2,182	2,196
営業利益	552	1,284
営業外収益		
受取利息	10	12
受取配当金	119	143
為替差益	48	-
その他	50	46
営業外収益合計	228	201
営業外費用		
支払利息	10	9
為替差損	-	28
その他	1	3
営業外費用合計	11	41
経常利益	770	1,445
特別利益		
固定資産売却益	-	5
投資有価証券売却益	8	0
その他	-	0
特別利益合計	8	6
特別損失		
固定資産処分損	2	0
関係会社株式評価損	-	61
ゴルフ会員権売却損	3	-
ゴルフ会員権評価損	-	8
その他	-	1
特別損失合計	5	71
税引前四半期純利益	773	1,380
法人税、住民税及び事業税	179	431
法人税等調整額	156	59
法人税等合計	335	490
四半期純利益	437	889

## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	773	1,380
減価償却費	148	157
投資有価証券売却損益(は益)	8	0
関係会社株式評価損	-	61
有形固定資産売却損益(は益)	-	5
有形固定資産処分損益(は益)	1	0
ゴルフ会員権売却損益(は益)	3	-
ゴルフ会員権評価損	-	8
貸倒引当金の増減額(は減少)	94	33
賞与引当金の増減額(は減少)	3	19
役員賞与引当金の増減額(は減少)	35	40
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	14	2
受取利息及び受取配当金	129	156
支払利息	10	9
売上債権の増減額(は増加)	3,219	3,387
たな卸資産の増減額(は増加)	24	612
前渡金の増減額(は増加)	834	34
前払年金費用の増減額(は増加)	363	173
リース投資資産の増減額(は増加)	0	0
仕入債務の増減額(は減少)	1,368	1,244
前受金の増減額(は減少)	2,027	922
未払又は未収消費税等の増減額	118	198
その他	181	5
小計	3,378	2,690
利息及び配当金の受取額	129	156
利息の支払額	10	9
法人税等の支払額	281	242
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,216	2,786
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	600	700
有価証券の売却及び償還による収入	500	600
有形固定資産の取得による支出	145	352
有形固定資産の売却による収入	5	24
無形固定資産の取得による支出	1	1
関係会社出資金の払込による支出	69	-
関係会社株式の取得による支出	82	-
投資有価証券の取得による支出	1,100	100
投資有価証券の売却及び償還による収入	20	2
ゴルフ会員権の売却による収入	9	-
貸付けによる支出	12	-
貸付金の回収による収入	12	-
従業員に対する長期貸付金の回収による収入	0	0
信託受益権の償還による収入	-	500
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,462	25

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	860	860
短期借入金の返済による支出	860	860
長期借入金の返済による支出	5	5
リース債務の返済による支出	30	34
自己株式の取得による支出	0	134
自己株式の処分による収入	0	133
配当金の支払額	134	219
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>170</b>	<b>259</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	53	37
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,636	3,109
現金及び現金同等物の期首残高	9,011	9,132
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,648	6,022

【注記事項】

(追加情報)

(役員報酬BIP信託に係る取引について)

当社は、取締役(社外取締役を除く。)並びに、当社と委任契約を締結している執行役員及び同等の地位を有する者(以下、「取締役等」という。)を対象に、当社の中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意欲を高めることを目的として、平成27年8月31日開催の取締役会決議に基づき、役員報酬BIP信託(以下、「本信託」という。)を平成27年9月16日より導入しております。

当社が、取締役等のうち一定の受益者要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定いたします。本信託は、予め定める株式交付規程に基づき、取締役等に交付すると見込まれる数の当社株式を、当社からの第三者割当により取得いたします。

その後本信託は、株式交付規程に従い、一定の受益者要件を満たす取締役等に対して、毎事業年度における業績指標等に応じて決定される株数の当社株式を退任時に交付いたします。

当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号平成27年3月26日)に準じております。

なお、信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しており、帳簿価額は133百万円、株式数は259,000株であります。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
従業員給料手当	706百万円	703百万円
退職給付費用	17百万円	10百万円
賞与引当金繰入額	290百万円	311百万円
貸倒引当金繰入額	60百万円	33百万円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金	9,338百万円	4,312百万円
有価証券勘定		
債権信託受益権	2,699百万円	1,799百万円
公社債	100百万円	1,900百万円
計	12,138百万円	8,012百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,390百万円	90百万円
償還期間が3か月を超える有価証券	100百万円	1,900百万円
現金及び現金同等物	10,648百万円	6,022百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	134	5.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月31日 取締役会	普通株式	134	5.00	平成26年9月30日	平成26年12月5日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	219	8.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

(注) 平成27年6月26日定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式付与ESOP信託口」が保有する当社の自己株式に対する配当金4百万円が含まれておりません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年10月30日 取締役会	普通株式	194	7.00	平成27年9月30日	平成27年12月4日	利益剰余金

(注) 平成27年10月30日開催の取締役会決議による配当金の総額には、「株式付与ESOP信託口」が保有する当社の自己株式に対する配当金4百万円、及び「役員報酬BIP信託口」が保有する当社の自己株式に対する配当金1百万円が含まれております。

(持分法損益等)

当社が有しているすべての関連会社は、利益基準及び利益剰余金基準からみて重要性の乏しい関連会社であるため、記載を省略しております。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電力 関連部門	化学機械 関連部門	電子精機 関連部門	環境 関連部門	計		
売上高							
外部顧客への売上高	20,534	7,479	6,782	3,221	38,018	67	38,085
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	20,534	7,479	6,782	3,221	38,018	67	38,085
セグメント利益又は損失 ( )	200	183	241	83	541	11	552

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸部門であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	541
「その他」の区分の利益	11
四半期損益計算書の営業利益	552

当第2四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電力 関連部門	化学機械 関連部門	電子精機 関連部門	環境 関連部門	計		
売上高							
外部顧客への売上高	30,446	9,679	11,972	4,901	56,999	67	57,067
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	30,446	9,679	11,972	4,901	56,999	67	57,067
セグメント利益	305	177	757	17	1,257	27	1,284

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸部門であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,257
「その他」の区分の利益	27
四半期損益計算書の営業利益	1,284

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	16円30銭	33円13銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	437	889
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	437	889
普通株式の期中平均株式数(株)	26,852,949	26,851,910

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 株主資本において自己株式として計上されている株式付与ESOP信託及び役員報酬BIP信託が保有する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

株式付与ESOP信託及び役員報酬BIP信託が保有する自己株式の期中平均株式数は、当第2四半期累計期間で、それぞれ611,000株、37,000株であります。

なお、前第2四半期累計期間においては、各信託口が保有する自己株式はございません。

## 2 【その他】

第106期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)中間配当については、平成27年10月30日開催の取締役会において、平成27年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	194百万円
1株当たりの金額	7.00円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成27年12月4日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月9日

東京産業株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 金子 能 周

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 芦 川 弘

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京産業株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第106期事業年度の第2四半期会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、東京産業株式会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。